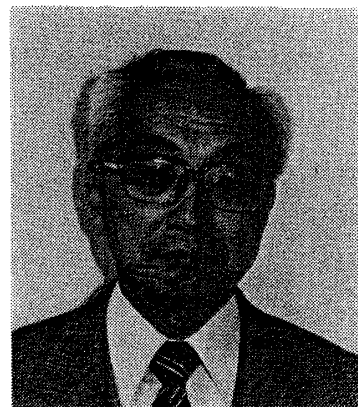


## □エディトリアル□

第23回日本リハビリテーション医学会総会  
開催にあたって

会長 鈴木良平

(長崎大学教授・整形外科)



第23回日本リハビリテーション医学会総会の会長をお引き受けし、1986年6月5日(木)、6日(金)に長崎で開催させていただくことになりましたことは、無上の光栄と存じております。現在長崎大学整形外科学教室を中心に鋭意準備を進めておりますが、血の通った手作りの学会を催したいと念願しておりますので、会員諸氏の絶大な御支授と御協力をお願いしたいと思っております。今回の企画としては、特別講演3題、シンポジウム1題、パネルディスカッション2題、会長講演、それにセミナー3題を予定しております。

特別講演の第1は、加藤一郎早大理工学部教授の「多機能大腿義足について」で、ワセダハンドなどで世界的に有名な業績を挙げておられる先生が最近開発された階段昇降可能な義足などについてお話しくださる予定です。

第2は、国立長崎療養所中西啓先生の「長崎の理学療法史の歴史」で、医学史および郷土史の大家としての御研究の一端を伺うことができると思います。西洋医学発祥の地にふさわしいものと期待しております。

第3は、ソ連キエフ整形外科研究所リハビリテーション部主任、アカデミー会員 Ternovoi 教授の「支持運動器障害者のリハビリテーション」で、今までほとんど知られていない、ソ連の現状がわかることでしょう。

シンポジウムは「離島・辺地のリハビリテーション」で、穂山富太郎、竹内孝仁先生に司会をお願いし、浜村明德、二渡久良、太田仁史、川口幸義、七戸幸夫先生をシンポジストに選んでいただきました。長崎県は多くの離島を抱え、住民のリハビリテーションをいかにすべきか、常に頭を悩ませております。全国各地でこのような問題にとり組んでおられる先生方にお話しいただき、問題の解決にいくらかでも資することができれば幸いです。なお高松鶴吉先生に指定発言をお願いしてあります。

パネルディスカッションの第1は「歩行分析の臨床応

用」で、窪田敏夫、乗松敏晴先生に司会、パネリストに藤田雅章、森田定雄、山崎信寿、森本正治先生、指定発言を土屋和夫、川村次郎先生にお願いしました。ややもすれば科学的興味のみに関りがちな歩行研究を、臨床的に応用できるような研究発表が行われることを期待しております。

第2は「リハビリテーション・チームのありかたをめぐって」で、司会を今田拓、大川嗣雄先生、パネリストを土肥信之、伊藤利行、長崎浩、佐藤豊先生にお願いしました。高度情報化、高齢化社会にいかに対応して行くか、未来志向的な討論が期待されます。シンポジウムとも関連する問題で、あわせて勉強していただきたいと思っております。

先にお願しましたアンケートで、会長講演を希望する方が多かったものですから、私のライフワークの一つである「私の歩行研究」を潜越ながらお話しいたします。

セミナーは第1日の演題終了後に、金沢大学神経内科高守正治教授の「神経筋疾患のみかた」、労災リハ工学センター土屋和夫所長の「義肢工学の進歩」、大阪府立身障者福祉センター川上博久先生の「身体障害者の道具としてのパーソナルコンピュータ」を3会場に分かれて同時に行いますので御期待ください。

一般演題については奮って御応募ください。

以上が学術集会の大要ですが、長崎市はポンペヤシーボルトをはじめとする西洋医学のメッカであり、平戸市にも多数の医学史の資料があります。また近くの外海町には医学をはじめとしてこの地の社会福祉に一生を捧げたド・ロ神父記念館もあります。かくれキリシタンの遺跡や原爆資料館などとともに、御見学くださることをおすすめています。また長崎には観光地も多く、名物料理もたくさんございますので、学会の合間にぜひお楽しみください。皆様の御来崎を心からお待ちいたしております。